

【オリコンサルら 新宿通りで複合型社会実験 賑わいと歩行者優先空間を創出】

新宿通りで複合型社会実験

賑わいと歩行者優先空間を創出

オリコンサルら

オリエンタルコンサルタンツは、新宿区から「新宿通り賑わい創出社会実験等実施業務委託」を受託し、地元団体や学識経験者、警察、国、東京都、新宿区で構成する「新宿駅東口地区歩行者環境改善協議会」と連携し、荷さばき集約化と道路空間を活用した、まちの賑わい創出社会実験（17年10月14日～11月30日）を実施した。

新宿駅は、一日の乗降客数が360万人を超え、世界一利用者の多い駅としてギネスブックに認定される巨大ターミナル駅。同駅の東口地区は全体が商業地域であり、新宿通りを中心に日本有

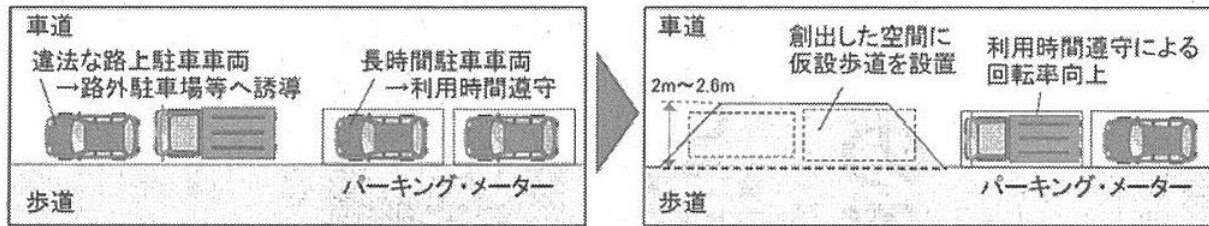
数の商業・サービスの集積地となっている。

一方、地区内では路上荷さばきが頻繁に行われ、荷さばき駐車場所を探索する車両や違法路上駐車、時間超過のパーキングメーター利用が発生するとともに、歩行者が休憩等に利用できる溜まり空間が少なく、歩行者優先の環境を阻害している要因となっていた。

そこで、今回の複合型社会実験では、新宿駅東口地区における荷さばき車両等の駐車適正化と集約化にあわせて、シンボルロード「新宿通り」に道路空間を活用した仮設歩道「SHINJUKU STREET SEATS」

を設置し、来街者の休憩待ち合わせ、街のフォトスポット等の機能を提供して、賑わいと歩行者優先空間の創出に取り組んだ。また、仮設歩道の維持管理は、協議会が主体となつて清掃やパンフレットの補充等を行った。

同社は、今回の社会実験で得られた効果と残された課題を検証し、20年の東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、その後の新宿駅東口地区における「歩行者主体の回遊性のあるまち」「新宿通りモル化」の実現に向け、新宿区と新宿駅東口地区歩行者環境改善協議会への支援を行いながら、同地区および新宿区



パーキング・メーター以外での路上駐車

道路空間に仮設歩道を設置

道路空間への仮設歩道設置の方法

のさらなる活性化に貢献していく。